

浮世草子複製

繪入

好色草子

古典文庫

浮世草子複製

繪入

好色草子

古典文庫 第二二四冊

昭和四十年四月二十日

印刷発行 ©

非売品

男十二人好色

一

解説者 大 沢 美 夫

発行者 吉 田 幸 一

印刷所 英和印刷株式会社
東京都文京区春日町二ノ五〇

発行所

東京都(王子局区内)
北区西ヶ原三ノ三四

古 典 文 庫

電 (九二九) 二 七 一 七
振替口座東京一四五九七番

入 會

好色千人抄
一

序

悪性町の長八市井側の赤物まで。つり
のゑんばや。金巻山と云ふ。口先の
きくまよ古鞍うしを鞍持も。と
まくの意。そのしつた。又ハ將
こし。さびや。す。忍。けり
あら。そのせて。たま。は。提。げ。ら。せ。売。ら
れ。さ。え。その。祓。言。に。的。野。と。名。を。呼。

四

会合も金も花の咲く夕飯食に月の影に
 思ふ同志あはれもしく新米の香る家
 つ實をいへる社月元一と酒を予ぐ他所
 雅波維林西塔の所一酒忌の原をうひ
 考るる意の東にひても花は好この景
 け西向く可笑教は又林塔よ。中環方化
 の文をうへる。書は燦て其者さる。常れ
 由に粗るる。その河れの舞林の河か
 一向書はあつて祿。角はあつて師

のや振^{ふる}束^{たば}とるまづらよ^ニ出^でられ^ハ収^こ束^{たば}れ
 虫^{むし}の價^い越^こ身^み該^{がい}はして^ハ地^ち東^{とう}の童^{どう}机^きよ志^しを
 福^{ふく}さし^ハ海^{かい}中^{ちゆう}しよのくす^ニ集^あはる^ハ十
 二人^{ふたに}男^{おとこ}皆^{みな}備^びはして^ハ實^{じつ}は^ハつと
 ちる^ハ人^{ひと}の^ハあづ^ハ—^ハあひ^ハ人^{ひと}の^ハあひ^ハ—

考
 西^{せい}陽^{やう}念^{ねん}自^じ

略^{りやく}
 金^{きん}糸^い



好色十式人男

卷之一
目録



やりしき声はきこ

芳野の花の口説所

立見はる火の海時

かきくま月づみ

きりぎりすのこゝろ

はるまじきおんな

十一

10

八

らん。余りて利根の月入三十あてつゝみ拾
町より一畝のならしに。應てあれゝ男神
世のちをいへるなりそ。根分よ。知人ぬな更ねひ。
さうりと止て。をれは。いんよ。あうくの
二世男。垢く。湯女と。あやも。男ひふか
り。ば。さう。まう。な。更と。いん。し。ま。悪の。な。ん
ら。よ。う。ら。な。き。福。徳の。常之。親。く。こ。り
こ。い。つ。ま。往。来。七。日。の。買。切。金。子。貳。あ。て。り
ち。を。い。し。ん。せ。し。終。て。衣。六。よ。う。付。二。て。う

みんの廻——席よ隈すぢりておどすも眼利

そん——の地重よ砂糺生善は用意し

又付煙まてこふくはぎ。天のそそめりよ花の

新夢よ着ね。それるも懷來波あうも人。

小さんと折連腰よ執をとあうく——とあゆ

しよ。小さんちの白のお色を花やうよ教ぢり式人

に余がち振袖下に両面を氣とこ扱もユよ

ちやま——と氣とけうよ。白ひくのちび

なり。るる目さうとす——く頭痛くて氣味

西^{にし}の^は格^{かく}子^し孫^その^の着^き物^{もの}よ。リ^りん^んが^がう^うま^まつ^つと^とま^まの
す^すの^のま^まあ^あり。そ^そ中^{ちゆう}三^{さん}友^{ゆう}龍^{りゆう}の^のう^うて^ては^はる^るふ^ふま^ま端^{たん}は^はて
に^に中^{ちゆう}の^の蛇^へを^をけ^け。紫^{むらさき}の^の蛇^への^のま^まを^をさ^さる^るる^るを^を
端^{たん}と^とあ^あり^りも^も取^{とり}合^あひ^ひせ^せむ^む。さ^さに^にか^かく^く常^{じょう}に^に
の^のん^ん月^{げつ}の^のみ^みり^りも^も。室^{むろ}や^や世^よの^のに^にす^す。そ^その^の佛^{ぶつ}と
個^こ城^{じやう}ハ^ハ鐵^{てつ}が^がら^らは^は老^{らう}る^る。と^とい^いつ^つこ^こ誰^{たれ}云^い源^{げん}
一^一。髪^{かみ}を^を一^一て^てづ^づ和^わ質^{しつ}は^は伏^{ふく}見^{けん}屋^やの^の八^{はち}重^{じゆう}方^{ほう}
を^を。海^{かい}氣^きの^の機^きは^はま^まり^りて^て川^{かわ}を^を中^{ちゆう}二^に渡^{わたり}よ。
一^一夜^よと^とあ^ある^ると^とあ^ある^るせ^せし^しよ。ハ^ハ声^{こゑ}の^の鶴^{つる}と^とは^はて

三毒を破るは道なり。とて、
臨む。とて、
さうする。とて、
や。玉の床に引揚げて我を忘れた
の。毎日の契氣指しめてる。自然なる
おろりちる。かたや。さうが。
馬車に乗る。とて、
さうする。とて、
いもあまらう。とて、
腰掛。とて、
体ひたす。

角の然とひ祓り。香葉は咽うふす杉葉。
 京忠比す川の太く禿武人より人を
 接む人よざとせ都の者とて送り
 するのどけ花好を百あの方辰いとね
 年ハみ々の男さうり。大道狭しと通りぬ。
 是も草屋に休是ちう守のまわく。一目よ
 じしを夢よ決るよはけりてありこそゆく。
 後をんねハ小さん角れと必ずぬつものうた
 さんちぬ人いまださうらの道をかくえ。

金魚も事よする。京風の女郎とて所は
のうきくよ。目のきくもかまらず。愛佳さう
そもけいようげんよ。様もきて。笑止あふ
にぐく。ちやあまねをあらうひ。家城立凡
よるもふく。いざや所ハ神子娘のあま
とあやいやら。声貸八所よ。とく
めいあまのあやうて。常之もあやう
とてハさあぬ。あやうもて。物とて。ち
の人ハあやう。たのれに。あやう。